

(別添2)

事業評価の結果 (内容評価項目)

福祉サービス種別 保育所
事業所名 岩村田保育園

【第三者評価の判断基準】

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。

「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 ■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 ■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 ■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 ■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。 	○「佐久市営保育園」全体の保育理念・保育目標及び「岩村田保育園」独自の保育理念・保育目標・保育園の願いが明文化され、保育過程が編成されていました。
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 ■ 9 内装等には、木材を利用している。 ■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 ■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	○園舎の内装は、木材が利用されていて温かみを感じられました。 ○廊下の各コーナーには、絵本や遊具等が置かれ、自由に創造的に遊べる環境が整えられていました。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 ■ 18 せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 	<p>○佐久市公立保育園「保育園職員としての心構え」3. 保育園職員としての姿勢の中に、「気づかい」をすることが心の温かい保育にも表れるので、些細なことでも「気づかい」する。と明記されていました。</p> <p>○楽しく過ごしてもらうために、出来ないことは無理にしないで様子を見ながら、少しずつ取り組めるよう支援されていました。</p>
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 ■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 ■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 ■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 ■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。 	<p>○歯磨き指導では、絵カードを使い説明したり、エプロンたたまひは見本を見せながらと、視覚的にわかりやすくした説明がなされていました。</p> <p>○基本的な生活習慣については、発達段階に応じ、無理なく自然に身に付けられるような支援がなされていました。</p> <p>○年中児は、集団を意識した行動がとれるような取り組みがなされていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 ■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 ■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 ■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>○相撲やカルタ取りなど季節に合わせた遊びも積極的に取り入れ遊びの幅を広げていました。</p> <p>○遊びにルールを設定（相撲を例に、最初と最後は挨拶をする。転んだ、足が出たら負け。見学者は円の中へ入らない等）し、皆で決め事は守るんだというルールを意識した支援がなされていました。</p> <p>○散歩の時には異年齢児と合同で公園等に行き、松ぼっくりやどんぐりを拾ったり、川を眺めたりと自然と触れ合う野外活動も多く取り入れられ、また人間関係が自然に育まれるよう配慮がなされていました。</p>
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。 ■ 36 子ども表情を大切に、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>○ヤクルトの空容器に豆を入れ、音の出るおもちゃを作ったりと、手作り玩具も使用し発達の支援を行っていました。</p> <p>○離乳食の相談は、担当保育士が対応するが、内容によっては給食職員や保健師にもアドバイスを頂けるシステムとなっていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。 ■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 ■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 ■ 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 ■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。 ■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 ■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。 	<p>○身支度は、もう少し頑張れば出来るという場面では励まし、自分で出来たという達成感が得られるような支援がなされていました。</p> <p>○友だちが遊んでいるおもちゃを使いたいが、貸してもらえないというような場面では、保育士が間に入り、「一緒に聞いてみようか」と話しながら、お互いの気持ちを受容した支援がなされていました。</p>
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。 	<p>○4歳児は、一人で行うと嫌になるが、友だちと一緒にやることで、もう少しやってみるか頑張る力を養う支援がなされていました。</p> <p>○5歳児は、ドッチボールや鬼ごっこを発展させる等し（鬼ごっこは、ハンターと○○、おまわりさんと○○などに替え）、幅を広げた遊びへと広げ活動していました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			<p>⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>a)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。 ■ 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 ■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 ■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 ■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 ■ 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 ■ 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。 	<p>○佐久市公立保育園”保育園職員としての心構え”の4.勤務等についての中に、発達支援研究会への加配保育士の参加は、自分が担当している子の事例の時は出席すると明記されていました。</p> <p>○発表会等の行事は、その子のゴールをどこにするか担当及び副担当、また保護者等の意向も考慮し、その子らしさが表現できるような支援が行われていました。</p> <p>○子どもの状態に合わせ、ついたてをたたいたり押し入れを利用したり等し、クールダウンの場が確保されていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 ■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 ■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 ■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 ■ 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 ■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 ■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。 	<p>○延長保育は朝7時30分から、夕方7時（土曜日と同様）まで行われていました。</p> <p>○ままごと、ぬり絵、ブロックなどのコーナーを設け、好きな遊びが選択できるようセットされていました。また、遊びを替えるときは、使っていたものを片づけてというルールも設けられていました。</p> <p>○異年齢の交流の場ともなっており、年齢の大きい子が年齢の小さい子の倒をみたり、年齢の小さい子が年齢の大きい子にお兄ちゃんお姉ちゃんとしたう姿も見られました。</p>
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 ■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 ■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。 	<p>○年長児はクリスマス会に、保護者が段ボールなどで作ったランドセルをプレゼントされ、それを背負って登園していました。小学校へ行くんだという意識を高められていました。</p> <p>○配慮が必要な子どもについては、学校の先生と何度か情報交換が行われ、スムーズに小学校へ移行できるよう配慮していました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 ■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えとともに、事後の確認をしている。 ■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 ■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 ■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 ■ 76 保護者に対し、保育所の子どもに関する方針や取組を伝えている。 ■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 ■ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。 	<p>○毎月身体測定を実施し、連絡ノートで各家庭に結果を伝えていました。</p> <p>○「岩村田保育園（号外）」や「クラスだより」等が発刊され、流行っている病気やこれからはやりやすい病気についての症状や対処法を紹介し注意を促していました。</p> <p>○SIDSに関しては、プレスチェックを0歳児5分、1歳児10分、2歳児15分ごとにチェックし記録されていました。</p>
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 ■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 ■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。 	<p>○歯科については、その年度に家庭で通院してもらい、結果を提出して頂いていました。</p> <p>○年長児は、予防歯科の取り組みとしてフッ素洗口を行っていました。</p>
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 ■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 ■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。 	<p>○アレルギー対応マニュアルが整備され、事前対応</p> <p>1) 医師による食事の指示書・アレルギー項目チェック表を出していただく。献立表の成分表の除去する成分にチェックをしてもらい毎月提出して頂く。</p> <p>2) 全職員で情報を共有する。と記載されており、そのように実践していることが確認できました。</p> <p>○園では、指示書を4月からの給食に間に合うよう3月に提出して頂いていました。また、担任は保護者と連絡を取り合い、どのくらいの量までなら可能なのかという細かい部分の確認をしていました。</p> <p>○食事には該当園児の名前が記載されており、担任がチェック表で内容を確認しアレルギー食品の除去に努めていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 ■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 ■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 ■ 91 食器の材質や形などに配慮している。 ■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 ■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 ■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 ■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。 	<p>○野菜に親しみを持ってもらうために野菜を栽培し、育てた野菜を献立に反映していました。</p> <p>○劇の中に野菜に関した内容の物を取り入れたり、紙芝居や絵本を活用し野菜に親しみを持ったり、野菜が好きになるような活動がなされていました。</p> <p>○廊下などに野菜に関する分かりやすい内容（黄色：なつやちからのもと・緑：からだのちょうしをととのえる・赤：ちきんにく、ほね、は）の掲示物が掲示されていました。</p>
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子ども食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>○残さないで食べれるよう、園児個々に応じた量の盛り付けにしています。また、お代わりも園児の希望でしています。</p> <p>○本日の献立（実物）を帰園の際、玄関に並べ保護者が確認できるように置かれています。どんなものを食べたのか、こんな食品も食べれるのかと参考になるようです。</p> <p>○3月9日は佐久（さく）の日、毎月19日は食育（イク）の日とし、地元の佐久鯉（甘露煮）やおぼろ（豆）等を使ったメニューが提供されていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>○保育参観日に園での活動の様子を知ってもらい、普段は送迎時のコミュニケーションを重視し、なるべく話が出来よう努めていました。連絡帳は、一日の様子を理解してもらえよう丁寧な記述を心がけていました。</p> <p>○保護者アンケートの中に、送迎の際、駐車場が混雑するため、職員と思うように話せないという記述がいくつかありました。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 ■ 112 相談内容を適切に記録している。 ■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>○お便り（園だより、クラスだより、たんぼぼ通信）を通して、活動の様子をお知らせしたり、保護者の感想なども掲載し子育てに参考となる内容を提供していました。</p> <p>○保護者からの相談等は、担任が受けクラス内で相談したり、内容によっては主任、園長へと繋いでいました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 ■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 □ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 □ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<p>○普段の関わりや送迎時、着脱・おむつ交換時等において、職員が子どもの様子の变化（身体・清潔面、言動や表情、動き等）や親の変化等に気を配り早期発見に努めていました。</p> <p>○報告の流れは、クラス担任から園長、市の保健師へ。保健師が家庭訪問となっていました。</p> <p>○虐待等権利侵害に関するのマニュアルは確認できました。マニュアル又はマニュアルに準ずる資料で一層の職員研修を望みます。</p>
	3 保育 の 質 の 向 上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 ■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 ■ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<p>○自己評価は、自己評価シートを活用し自分の目標を設定し、それに対して自己評価する仕組みとなっていました。また、目標設定時、中間、期末と園長と個人面談の機会が設けられていました。</p>